

第1部 2010年度決算概要 及び 2011年度業績予想

専務執行役員 別川 俊介

2010年度 業績サマリー

単位: 億円

■ ポイント

(1) 受注高

- ・全セグメントで前期比増加
- ・中国、新興国を中心に受注回復

(2) 売上高

- ・量産機械系は前期比増加
- ・重機械系は受注残減少により
前期比減少

(3) 営業利益

- ・全セグメントで黒字化
- ・量産機械系は売上増加で前期比
増益
- ・重機械系はコストダウン等により
利益を確保

(4) 純利益

- ・負ののれんの影響などにより前期比
増加

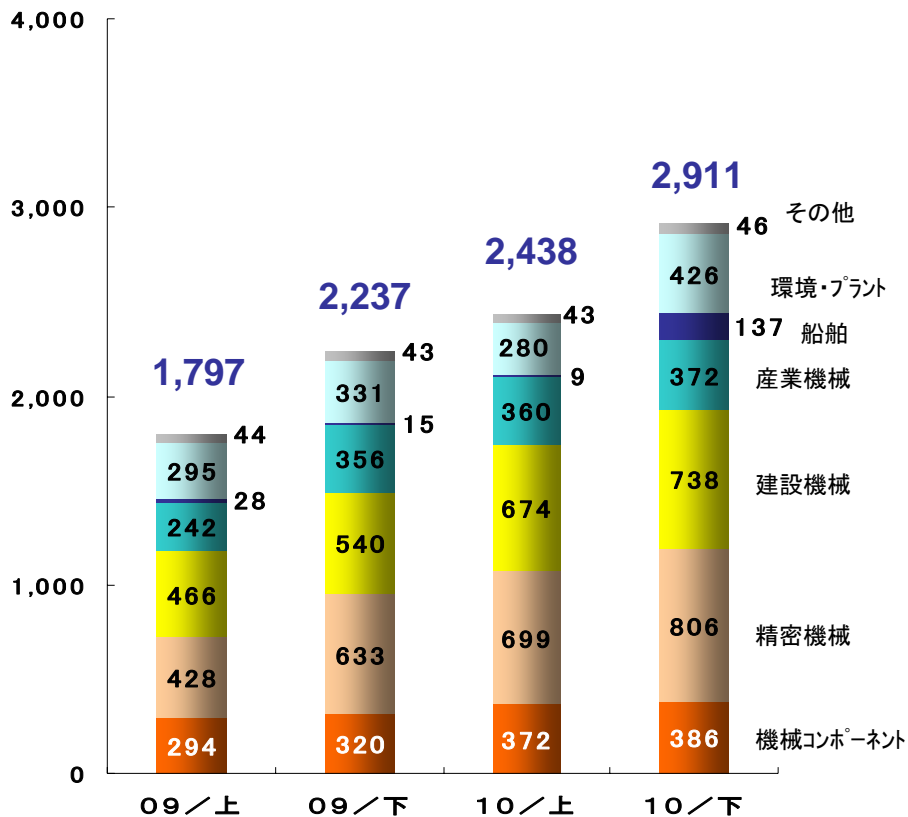
	2010	2009	増減
受注高	5,349	4,034	1,315
売上高	5,480	5,162	319
営業利益	458	283	175
営業利益率	8.4%	5.5%	2.9%
経常利益	443	263	179
経常利益率	8.1%	5.1%	3.0%
特別損益	8	△1	9
税金等調整前 当期純利益	451	263	188
当期純利益	279	133	146
当期純利益率	5.1%	2.6%	2.5%

受注・売上 半期推移

単位:億円

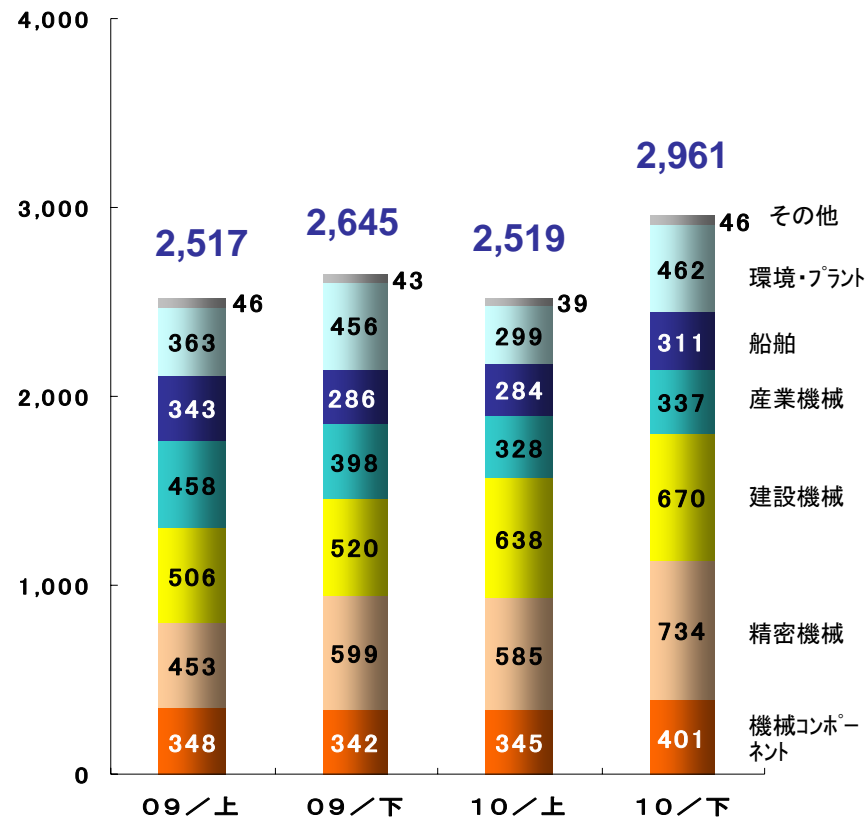
受注高

- 量産機械系を中心に増加
船舶は2年半ぶりに新造船を受注



売上高

- 受注増加を反映して増加基調で推移



セグメント別営業利益

単位:億円

■ 対前年度比較

<機械コンポーネント>

売上増加に加えてコストダウンにより利益増加

<精密機械>

売上増加およびプラスチック機械等が大幅に利益改善

<建設機械>

油圧ショベルは売上増加で利益増加するも、米国モバイルクレーンは利益が前年比悪化

<産業機械>

売上減少により前年比悪化するも高い利益水準を維持

<船舶>

新造船の引き渡しが前年比1隻少ない8隻で売上減少したが、コストダウン等により利益改善

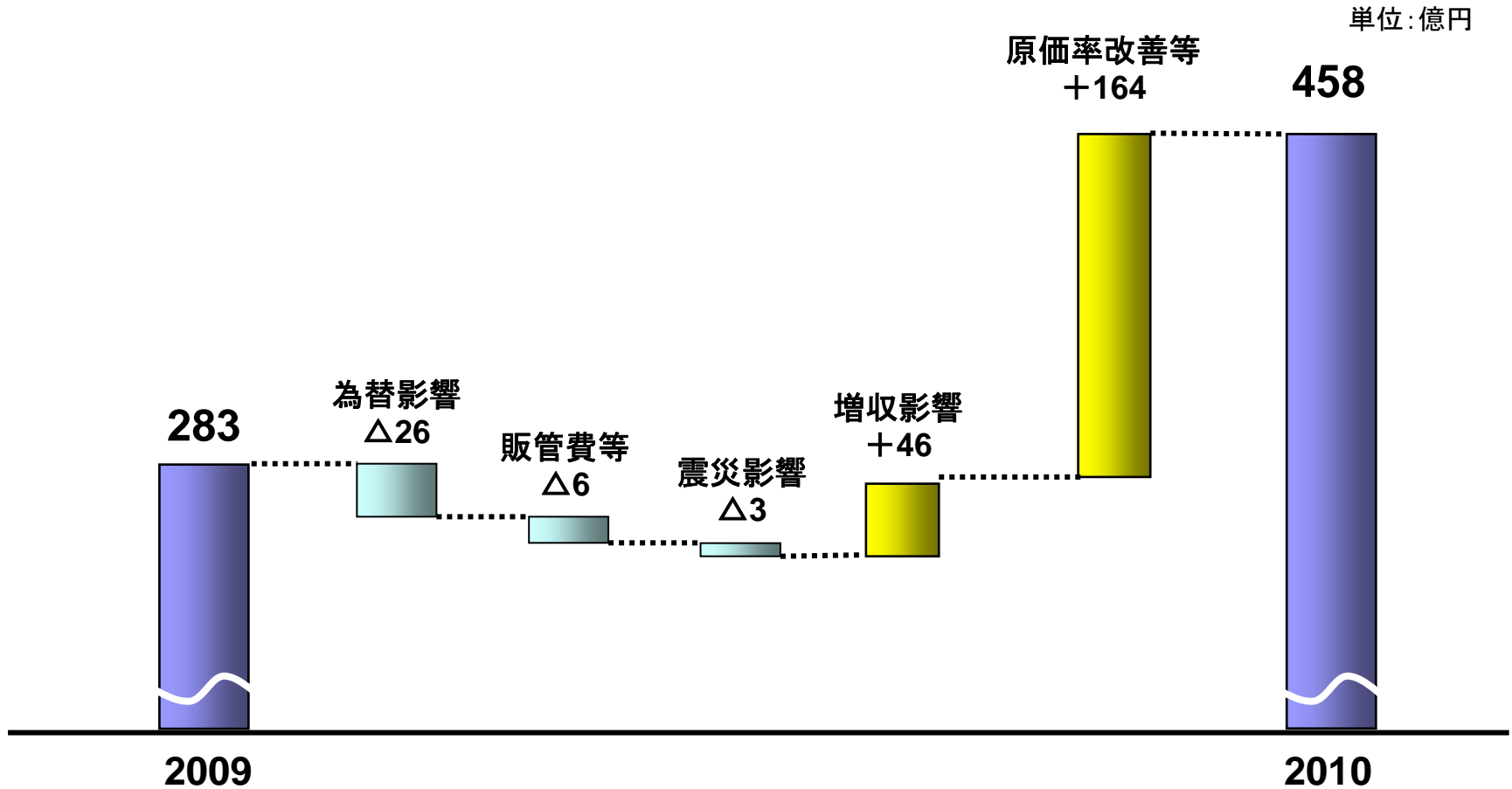
<環境・プラント>

売上減少により前年比利益悪化

	2010	2009	増減
機械コンポーネント	49	9	40
精密機械	83	△26	109
建設機械	53	6	47
産業機械	103	142	△39
船舶	99	67	32
環境・プラント	56	71	△15
その他	15	14	1
計	458	283	175

營業利益增減分析(2009年度—2010年度)

單位：億円



連結貸借対照表

単位:億円

	2011/3末	2010/3末	増減		2011/3末	2010/3末	増減
流動資産	3,653	3,398	256	負債	3,574	3,559	15
現預金	525	625	△100	買掛債務	1,320	1,080	239
売上債権	1,553	1,319	234	前受金	333	410	△77
たな卸資産	1,310	1,234	76	有利子負債	678	877	△198
その他	266	220	46	その他	1,243	1,193	50
固定資産	2,615	2,703	△88	純資産	2,694	2,542	152
有形固定資産	2,142	2,165	△23	株主資本	2,426	2,118	308
無形固定資産	69	73	△4	その他の包括利益累計額	247	324	△77
投資その他の資産	404	465	△61	少数株主持分	21	99	△79
合計	6,268	6,101	167	合計	6,268	6,101	167
				ネット有利子負債比率	2.4%	4.1%	△1.7%
				自己資本比率	42.6%	40.0%	2.6%

連結キャッシュフロー計算書

区 分	単位：億円		
	2010	2009	増減
営業活動	365	575	△210
税金等調整前当期純利益	451	263	188
減価償却費	179	197	△18
運転資本	△101	143	△244
その他(税金等)	△164	△28	△136
投資活動	△235	△140	△96
フリーキャッシュ・フロー	130	436	△306
財務活動	△220	△267	47
現金・現金同等物増減	△100	171	△271
現金・現金同等物期末残高	517	615	△98

2011年度セグメント別業績予想

- ポイント (1) 受注は全セグメントで対前年比増加。機械コンポーネント、建設機械の伸び率が大きい。
 (2) 売上は受注増に伴い増加。
 (3) 営業利益は売上増に伴い増加。重機械系はコストダウンなどで利益確保。

		2010下期 実績	2011上期 予想	2011下期 予想	2011年度 予想	2010年度 実績
機械コンポーネント	受注高	386	450	490	940	758
	売上高	401	440	480	920	746
	営業利益	32	25	45	70	49
精密機械	受注高	806	750	820	1,570	1,505
	売上高	734	710	820	1,530	1,319
	営業利益	67	40	85	125	83
建設機械	受注高	738	830	880	1,710	1,412
	売上高	670	740	860	1,600	1,308
	営業利益	22	25	65	90	53
産業機械	受注高	372	450	350	800	732
	売上高	337	380	420	800	665
	営業利益	49	40	50	90	103
船舶	受注高	137	20	200	220	146
	売上高	311	310	250	560	595
	営業利益	67	50	45	95	99
環境・プラント	受注高	425	370	500	870	706
	売上高	462	320	490	810	761
	営業利益	50	0	60	60	56
その他	受注高	46	30	60	90	89
	売上高	46	40	40	80	86
	営業利益	8	5	5	10	16
合計	受注高	2,911	2,900	3,300	6,200	5,349
	売上高	2,961	2,940	3,360	6,300	5,480
	営業利益	295	185	355	540	458

2011年度業績予想

■ ポイント

- ・2010年度は2009年度4円から8円に増配。
- ・2011年度は中間配を実施したうえで年間10円に増配。

単位: 億円

	2011上期予想	2011下期予想	2011年度予想	2010年度実績
受注高	2,900	3,300	6,200	5,349
売上高	2,940	3,360	6,300	5,480
営業利益	185	355	540	458
営業利益率	6.3%	10.6%	8.6%	8.4%
経常利益	165	340	505	442
経常利益率	5.6%	10.1%	8.0%	8.1%
特別損益	—	—	—	8
当期純利益	90	210	300	279
当期利益率	3.1%	6.3%	4.8%	5.1%
配当	4円	6円	10円	8円
配当性向			20.5%	17.3%
ROIC (税引後)			8.7%	7.8%
織込レート(ドル)			85円	92円(実績)

第2部 経営戦略

社長 中村 吉伸

前中計「グローバル21」総括

- 「グローバル21」では、世界同時不況を構造改革で凌ぎきり、回復基調に転じた。基本方針に沿った投資は実行。

	グローバル21	結果の総括
2010年度 目標	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 売上高 8,500億円 ➤ 営業利益 1,000億円 ➤ ROIC 10%以上 	世界同時不況の影響を被るも、構造改革で凌ぎ回復基調に。
キーワード	<ul style="list-style-type: none"> ➤ グローバル化 ➤ イノベーション 	グローバル化は進展。今後はイノベーションに軸足。
投資方針 (3ヵ年)	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 設備投資1,000億円 ➤ 研究開発費500億円 	財務規律を維持しつつ、成長への投資は実施。

2010年度(グローバル21最終年度)業績

売上・営業利益とも未達だが、回復軌道に入った。

	(当初計画)	⇒	(実績)
受注	—	⇒	5,349億円
売上	8,500億円	⇒	5,480億円
営業利益	1,000億円	⇒	458億円
ROIC	10%以上	⇒	7.8%

3ヵ年(2008-2010年度)累計投資額

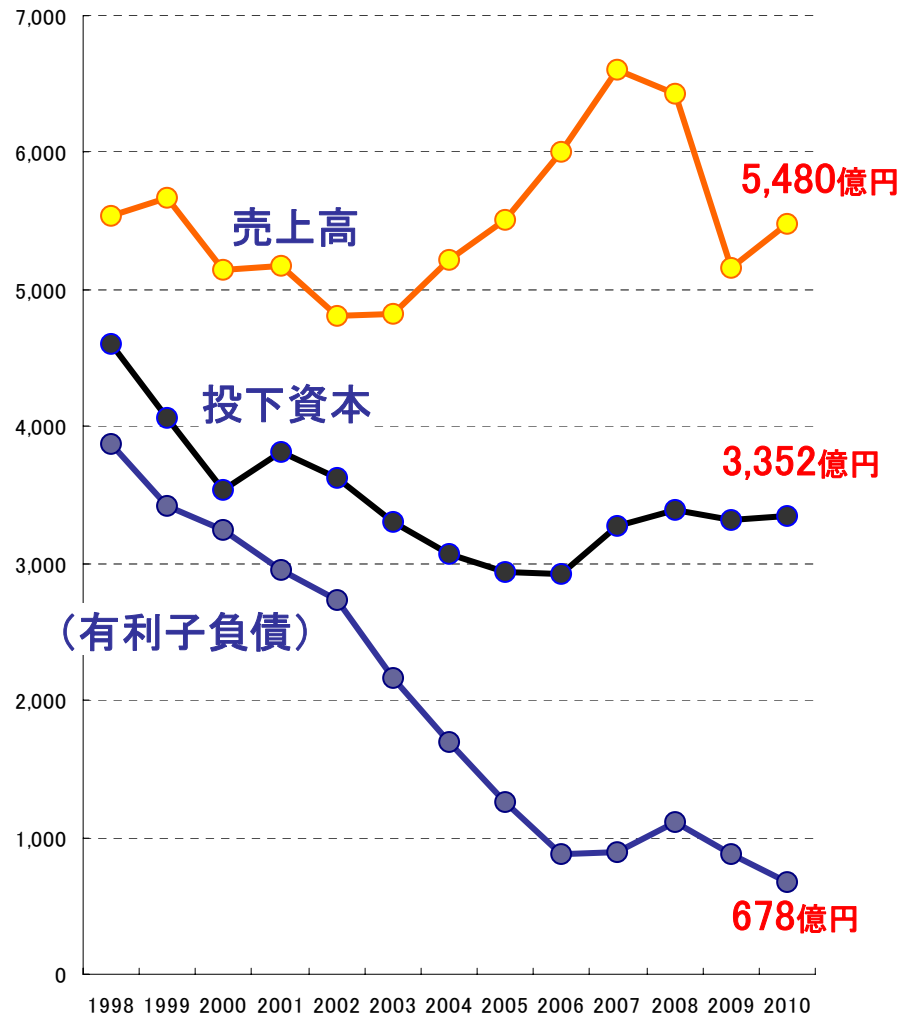
設備投資は、海外製造拠点展開、M&Aは機械コンポーネント・精密の強化、開発投資は一流商品の創出をねらう。約1,300億円の投資を実行。

	(当初計画)	⇒	(実績)
設備投資	1,000億円	⇒	706億円
研究開発	500億円	⇒	311億円
M&A		⇒	268億円
合計	1500億円	⇒	1,285億円

「グローバル21」総括(業績推移)

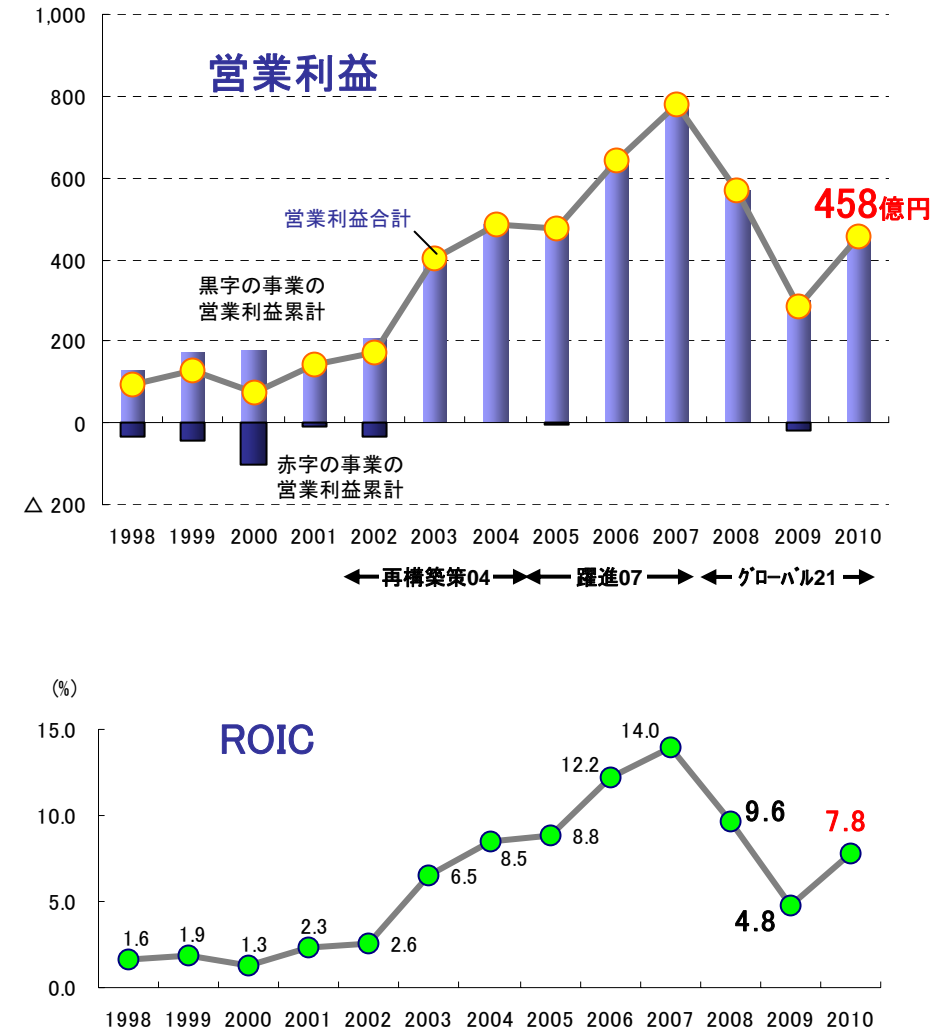
売上高・投下資本

単位:億円



営業利益・ROIC

単位:億円

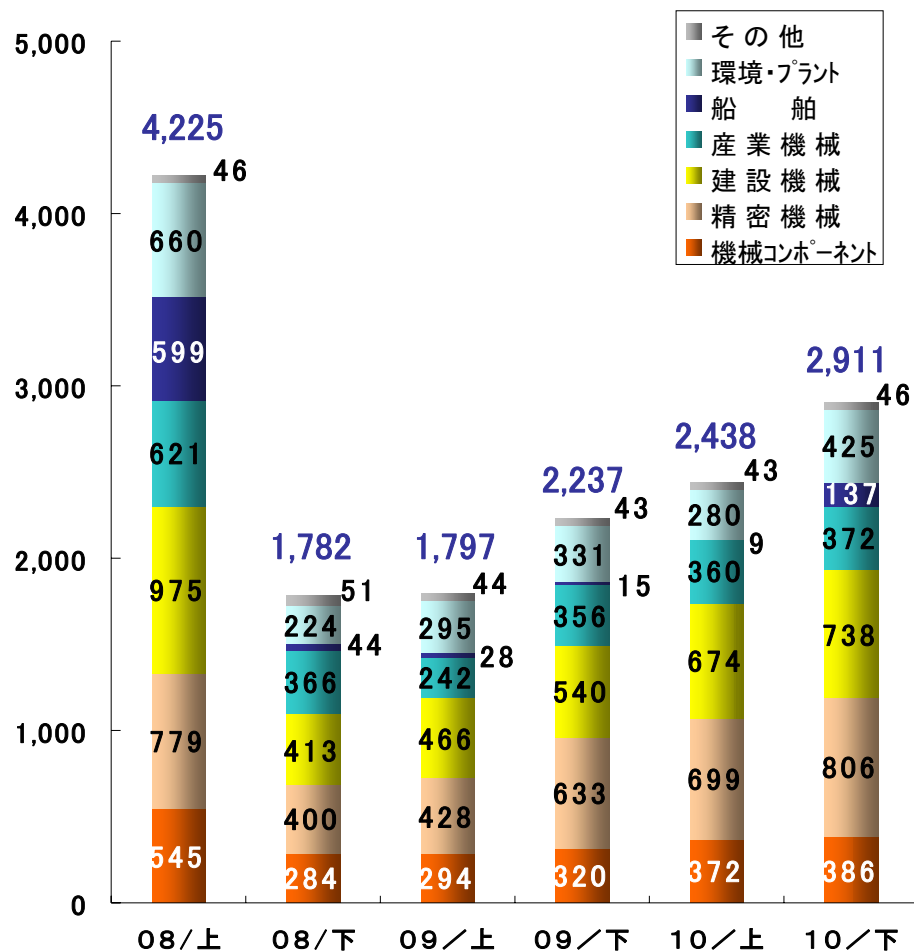


受注高・売上高推移(2008-2010年度)

受注高

- 機械コンポーネント、精密、建機は08/下を底に回復基調。
船舶、重機械系は市況が回復せず低いレベルで推移。

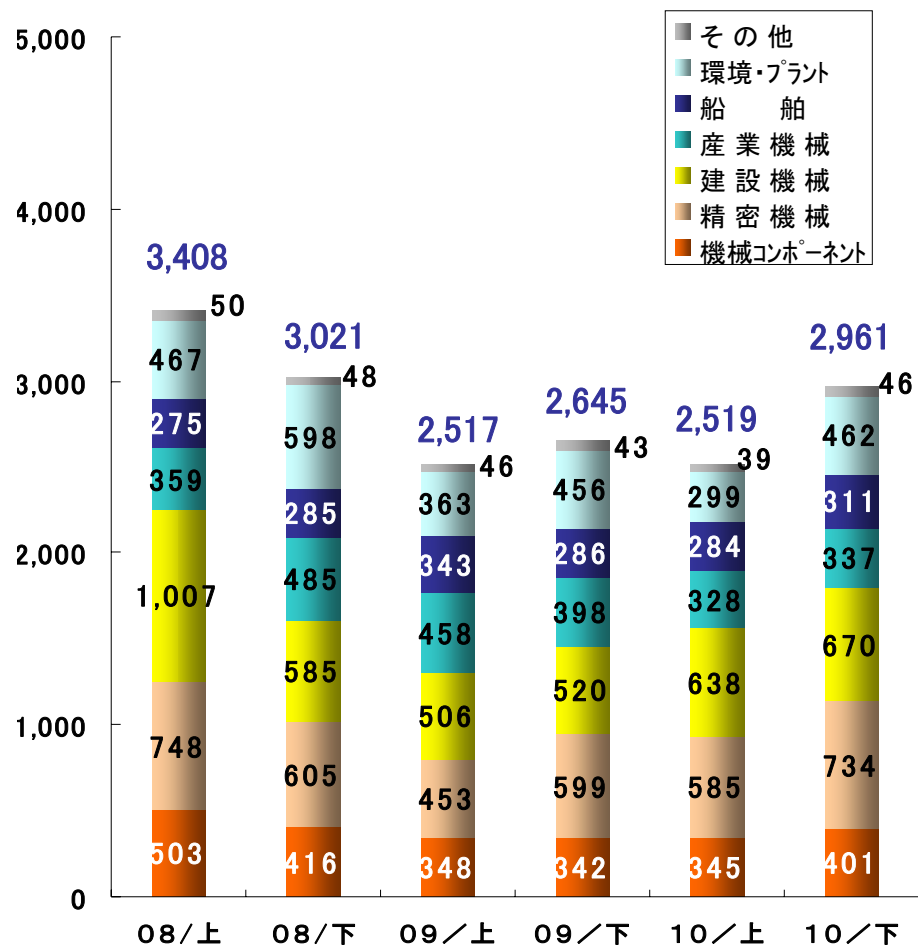
単位:億円



売上高

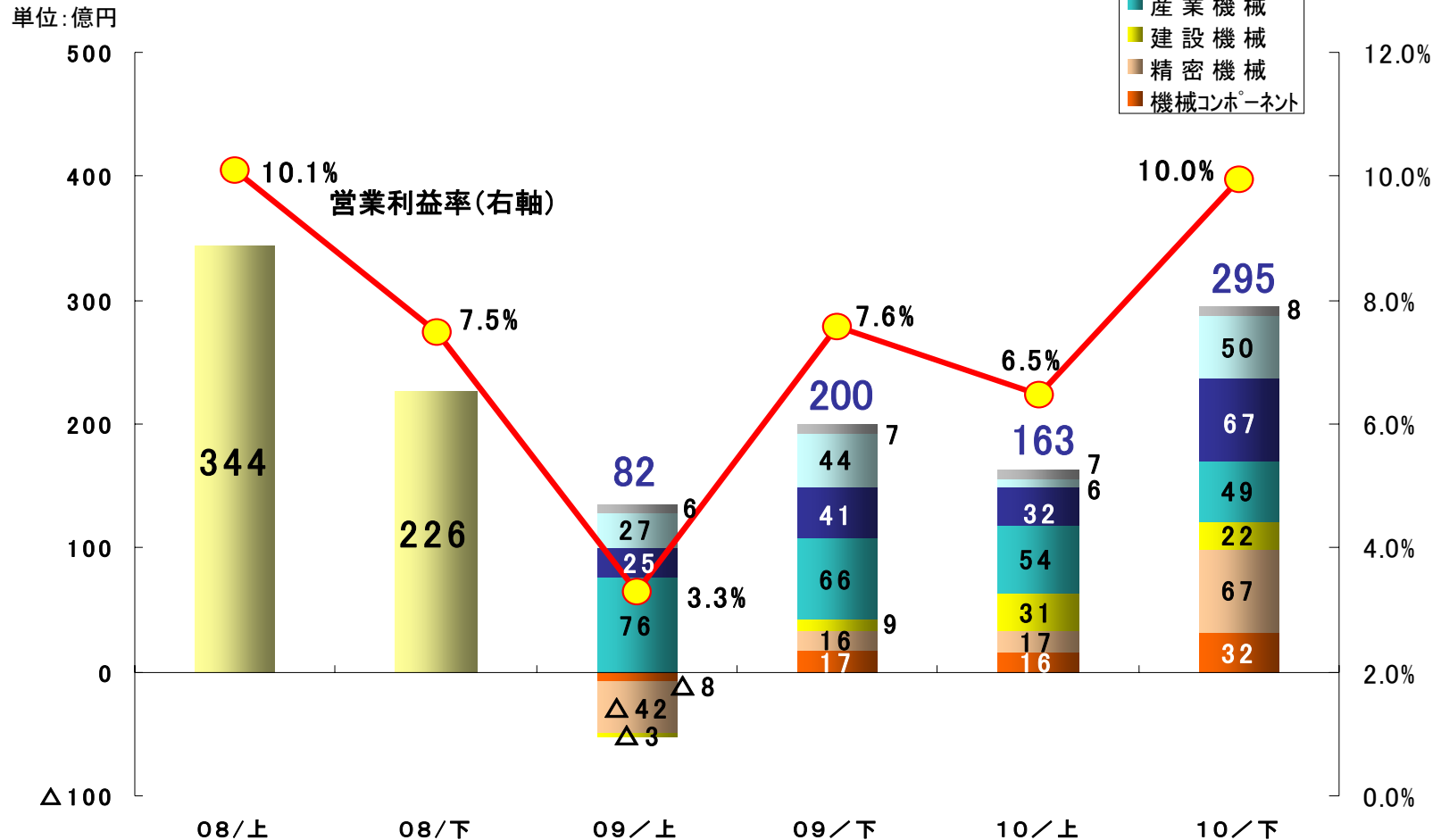
- 機械コンポーネント、精密、建機は09/上を底に回復基調。
船舶、重機械系は受注残の消化により安定的に売上確保。

単位:億円



営業利益推移(2008-2010年度)

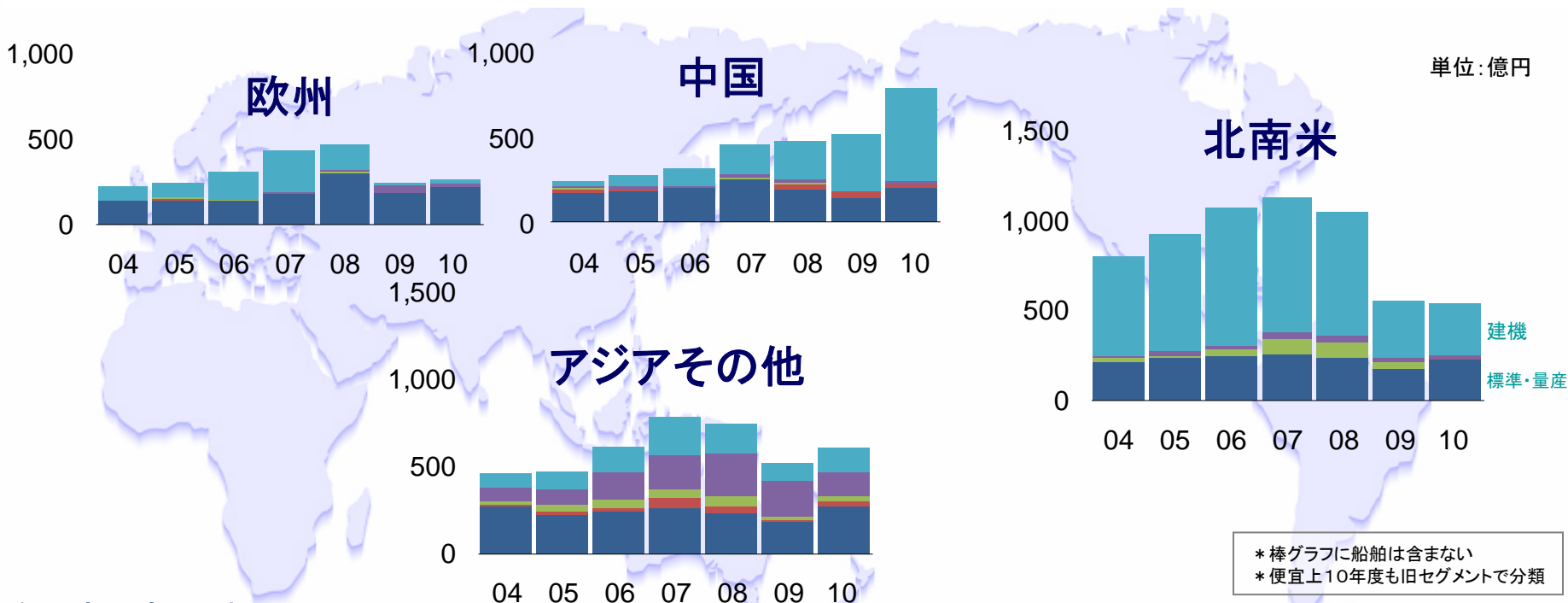
- 機械コンポーネント、精密は09／上を底に回復基調。
建機の10／下は部品調達等の影響で利益率低下。
船舶、重機械系は引き続き高い利益率を維持。



※ 08年度は旧セグメントベースでしか開示していないため、合計数値でのみ表示

海外売上高推移(旧セグメント別)

■ 「グローバル21」では、欧米および中国を除くアジアでの売上が大幅に落ち込んだ。
成長著しい中国では建機が売上を伸ばすも、全体では欧米の落ち込みをカバーできなかった。



* 棒グラフに船舶は含まない
* 便宜上10年度も旧セグメントで分類

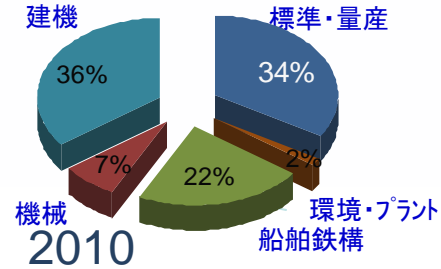
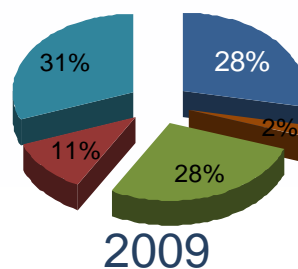
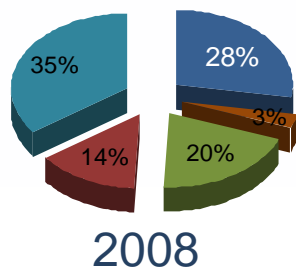
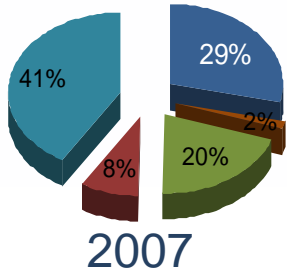
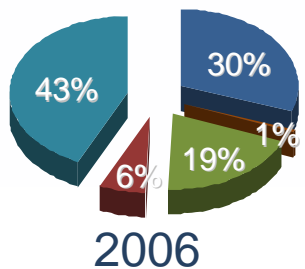
海外売上高(比率)
2,761億円(46%)

3,318億円(50%)

3,493億円(54%)

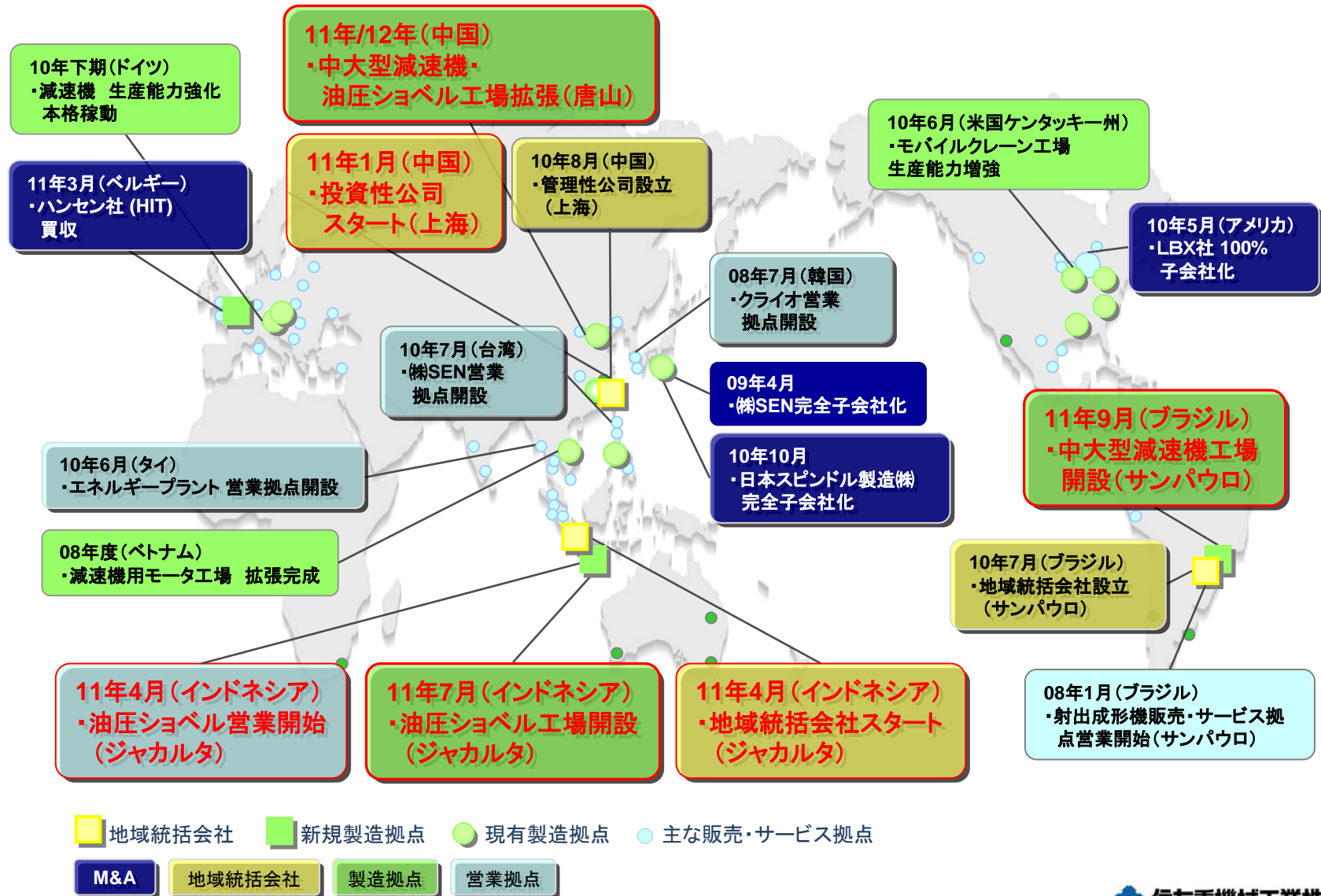
2,432億円(47%)

2,774億円(51%)



グローバル拠点の整備・拡充

- 「グローバル21」では、製造・販売の拠点整備を積極的に推進した。



「グローバル21」の代表的一流商品

陽子線がん治療装置 (精密先端)



独自技術の高度先端医療 機器でQOL維持に貢献

国内初の治療装置認可を受け、以降10年以上の運転実績をベースに「グローバル21」の期間中に国内から1件、海外から4件の受注を獲得。

油圧ショベル「LEGEST」 (建機)



卓越した省エネ性能

2007年度経産省主催「省エネ大賞」受賞。
運転性能の良さと相俟ってグローバル市場で高い支持を得、シェアアップに寄与。

中型タンカー (船舶)



差別化戦略による価値創造

徹底的なマーケティングと、トヨタ生産方式の浸透により、ワールドニッチナンバーワンを獲得。世界トップレベルの利益率を実現。

「グローバル21」から「イノベーション21」へ

- 「グローバル21」では経営環境激変の中、企業体質の強化に取り組みつつグローバル成長に向けての投資を実施した。
- 一方、3カ年を通して新中計「イノベーション21」につながる取り組むべき課題も明らかになった。

「グローバル21」の重点施策

「世界の住友重機械」

- ・グローバル化 ⇒ 成長機会の確実な捕捉
- ・イノベーション ⇒ 一流商品開発
- ・世界同時不況の到来 ⇒ ピンチをチャンスに

基本方針:「グローバル化」「イノベーション」

- <課題>
- ・成長性・収益性の弱さ
 - ・国内事業の停滞



「イノベーション21」の重点施策

「強い住友重機械」

- ・グローバル・ネットワークの拡充と活用
- ・革新的商品の開発と市場への投入
 - ⇒ プロダクト・イノベーション
- ・生産・販売力および業務遂行力の革新
 - ⇒ プロセス・イノベーション

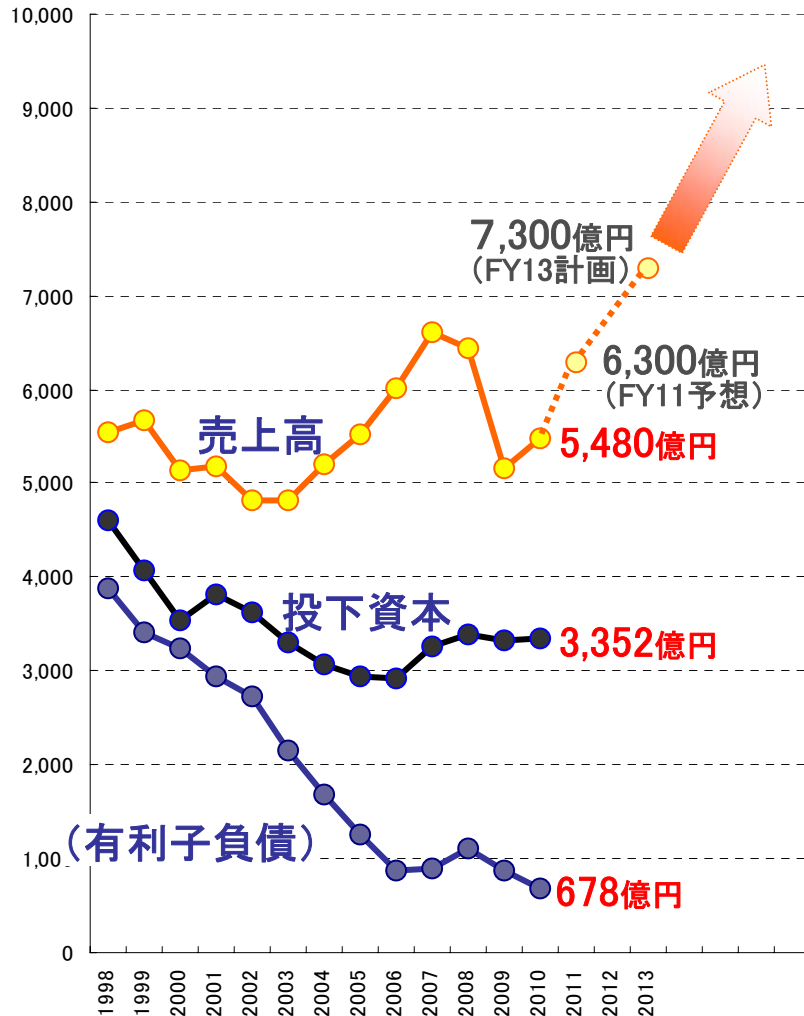
新中計「イノベーション21」

業績目標 (2013年度)	<table border="0"> <tr> <td>売上高</td> <td>7,300億円</td> </tr> <tr> <td>営業利益</td> <td>730億円</td> </tr> <tr> <td>ROIC</td> <td>10%以上</td> </tr> </table>	売上高	7,300億円	営業利益	730億円	ROIC	10%以上
売上高	7,300億円						
営業利益	730億円						
ROIC	10%以上						
企業コンセプト	<p style="text-align: center;">「強い住友重機械」 競争構造を再構築し、優位性を確立して 持続的成長と収益力向上を図る</p>						
成長キーワード	<p style="text-align: center;">グローバル化 & イノベーション</p>						
投資方針	<p style="text-align: center;">3カ年で1,500億円</p>						
長期目標	<p style="text-align: center;">売上高1兆円企業へ</p>						
具体的施策	<p style="text-align: center;">競争構造の再構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界で戦うためのグローバル・ネットワークの強化・拡充 ・ONE-SHIの総力を挙げたプロダクト・イノベーション による一流商品創出 ・プロセス・イノベーションによる強い企業体質作り 						

「イノベーション21」(業績推移計画)

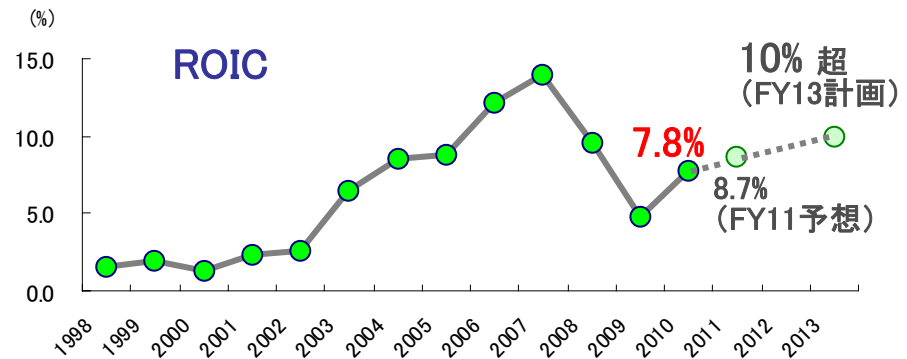
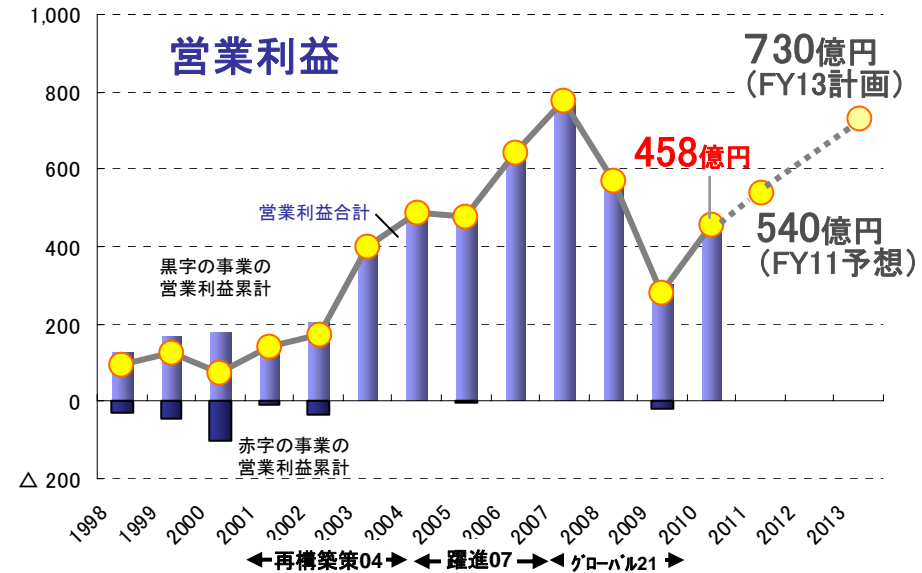
売上高・投下資本

単位: 億円



営業利益・ROIC

単位: 億円



セグメント別2013年度計画と主要施策

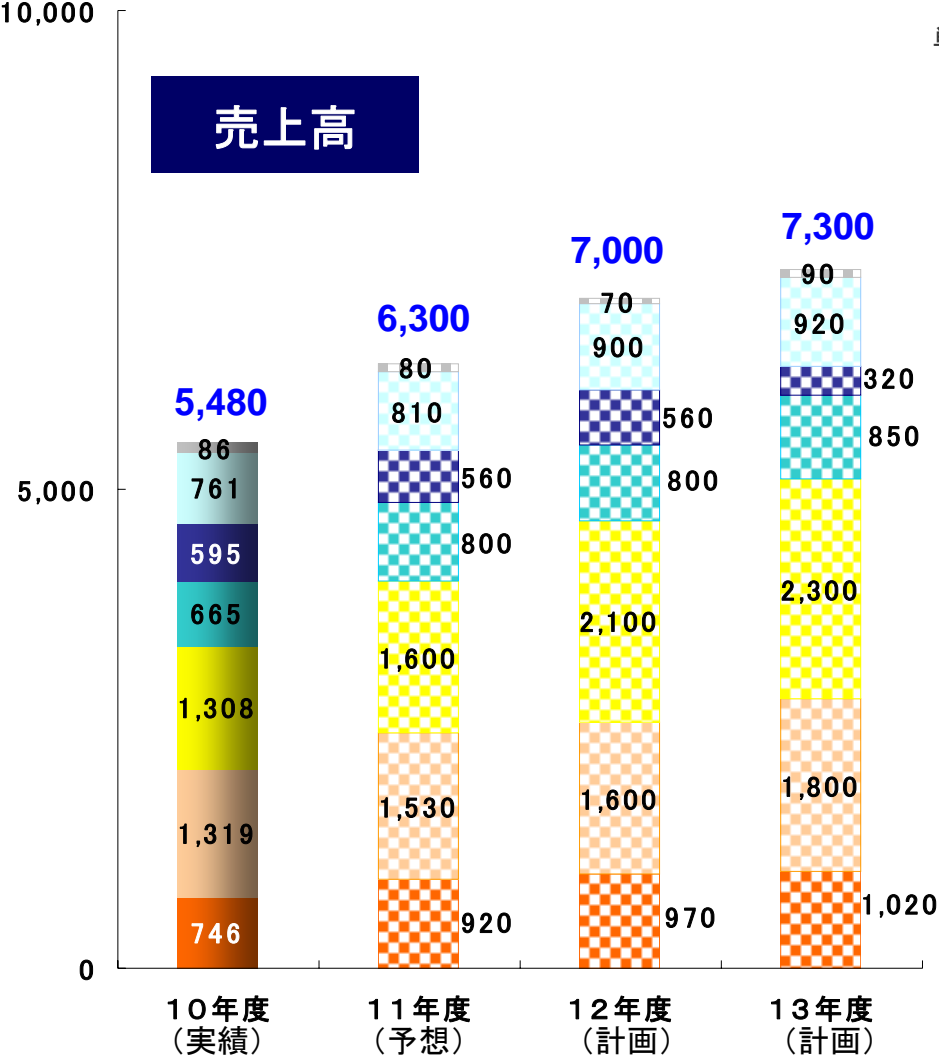
単位:億円

セグメント	2010年度実績		2013年度計画		主要施策
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	
機械 コンポーネント	746	49	1,020	120	・ハンセン社とのシナジー追求 ・中国・ブラジル等新興国市場での拡販
精密機械	1,319	83	1,800	200	・<プチ機>デマーグ社と合わせ世界をカバー ・<医療・半導体・液晶>各製造分野に注力
建設機械	1,308	53	2,300	240	<ショベル> ・中国、インドネシアでの製造・販売力強化 ・北南米市場への注力 <クレーン>新型クレーンの開発・米国市場投入
産業機械	665	103	850	85	・タービン・ポンプのグローバル拡販 ・その他事業の海外展開
船舶	595	99	320	5	・受注確保 ・次期一流商品船型開発
環境・プラント	761	56	920	70	・アジアのインフラ需要で飛躍
その他	86	15	90	10	
合計	5,480	458	7,300	730	

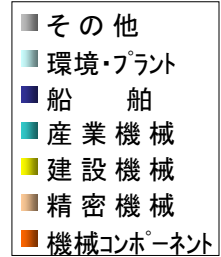
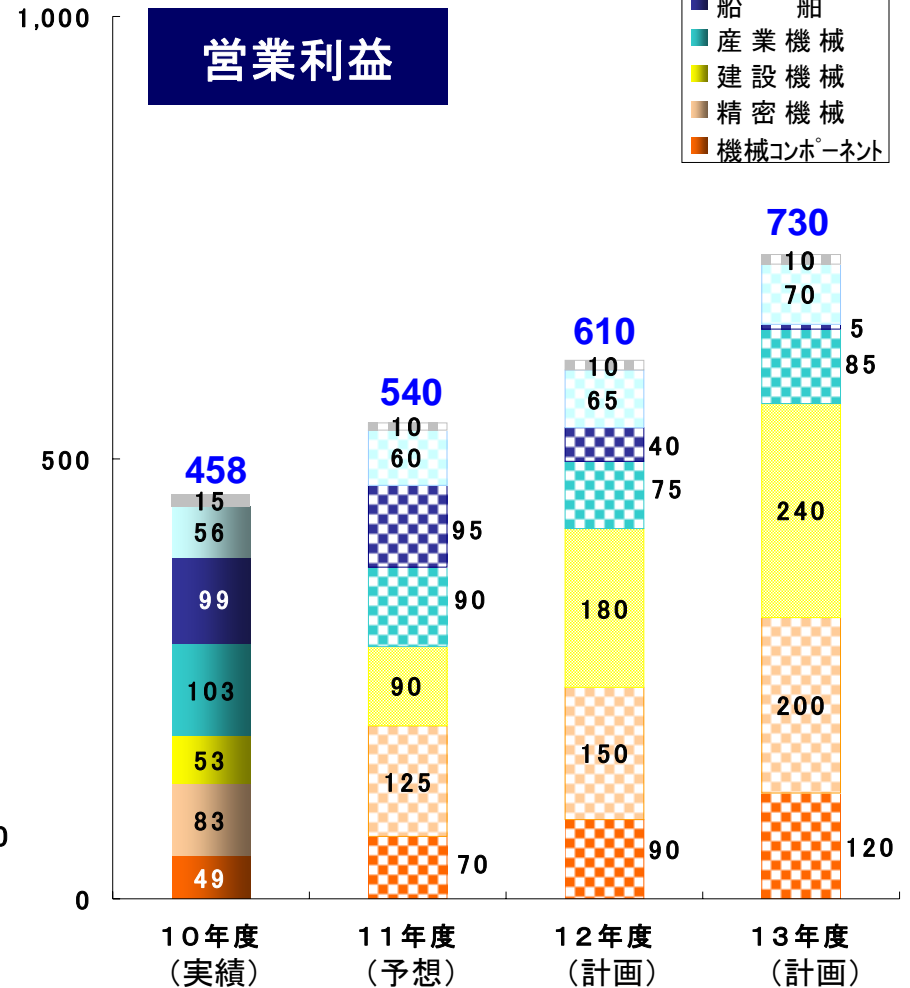
2011 - 2013 売上高・営業利益計画

量産機械系(機械コンポ、建機) : 新興国市場への拡販
 精密機械系 : 先端分野の事業規模拡大
 重機械・プラント系 : 得意分野に集中、グローバル展開

単位: 億円



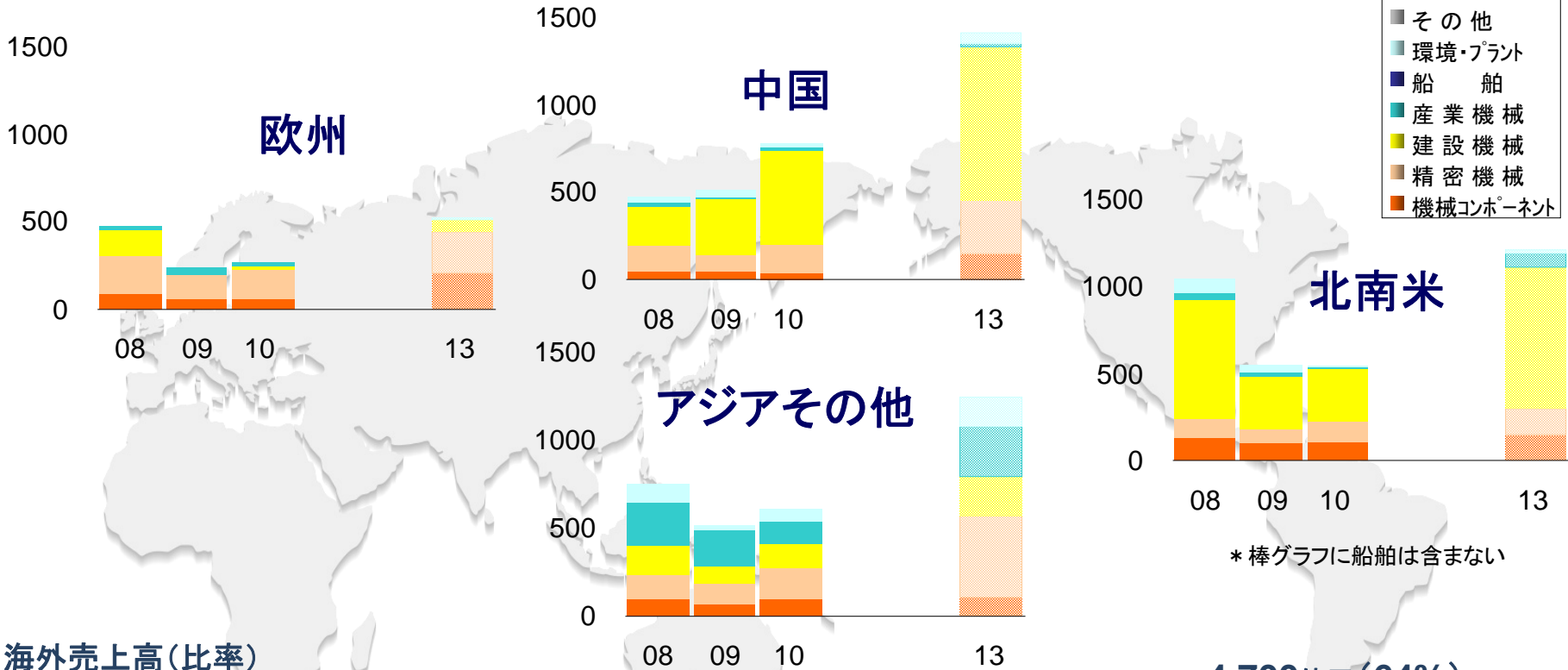
単位: 億円



地域別売上計画(新セグメント別)

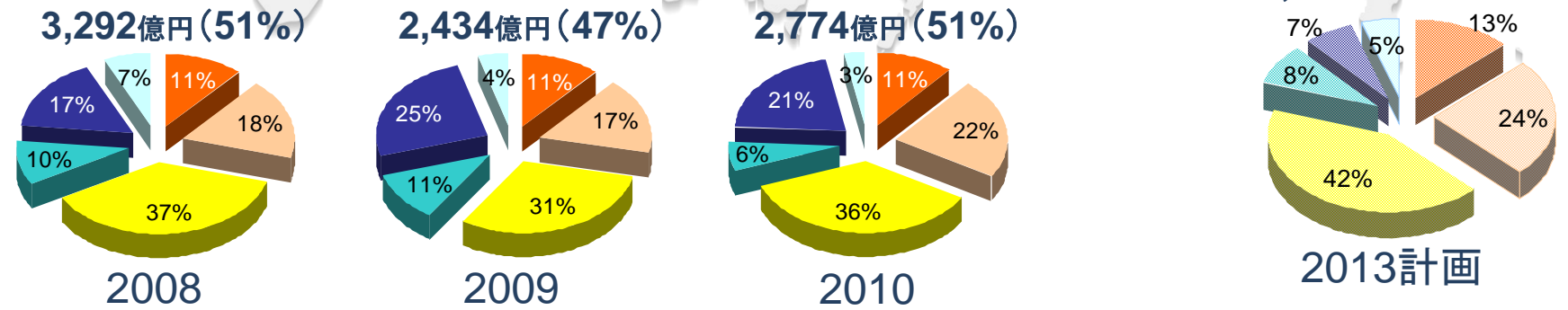
■ 全地域にわたり機械コンポ、精密、建機の拡大に注力

単位:億円



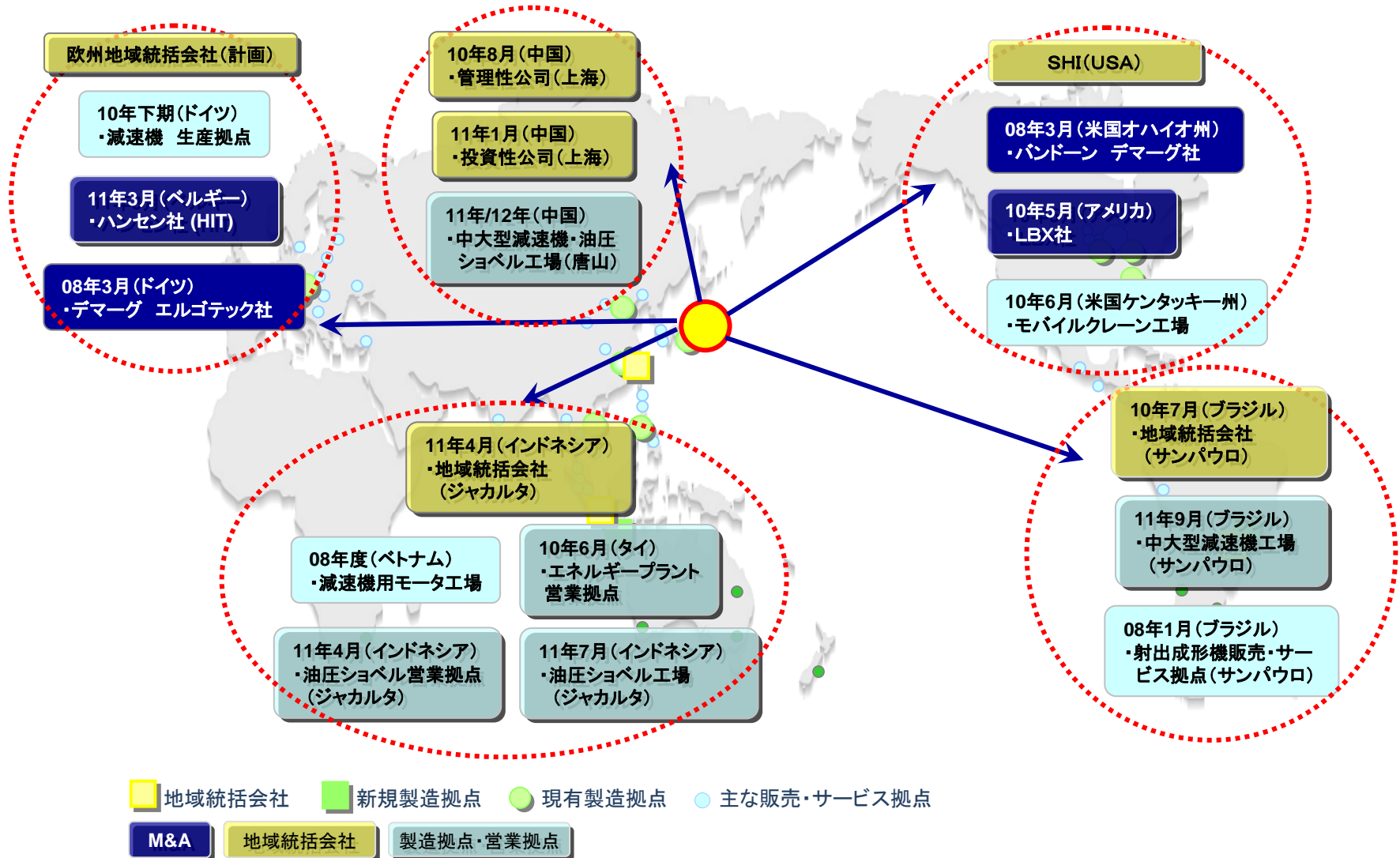
* 棒グラフに船舶は含まない

海外売上高(比率)



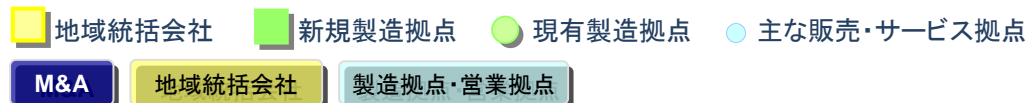
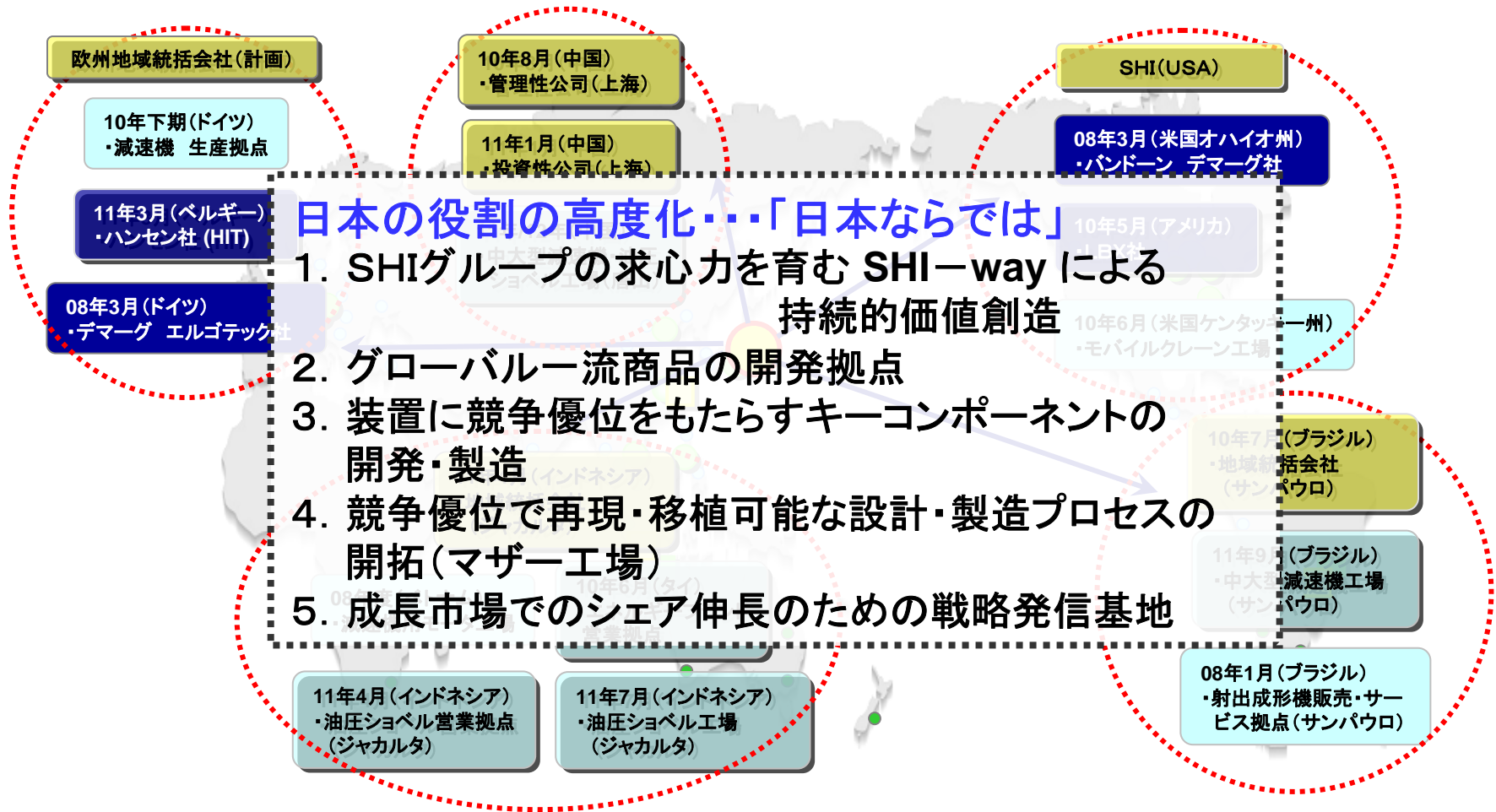
グローバル・ネットワークの拡充と活用

■ 「イノベーション21」では、拠点の自立と拠点間の連携、地域統括機能の整備・拡充、それを支える日本の機能高度化によりグローバルに競争優位状態を創出する。



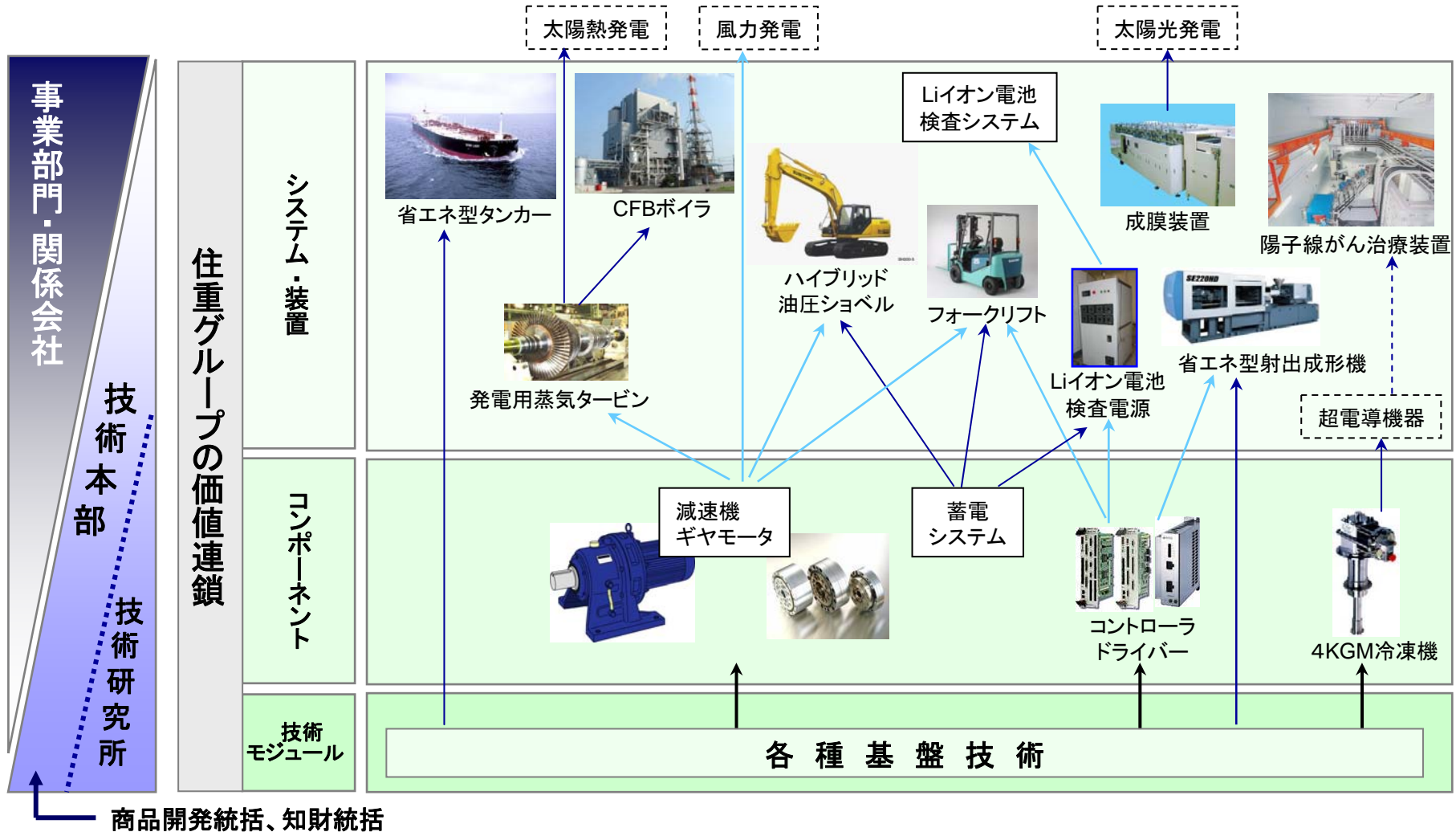
グローバル・ネットワークの拡充と活用

- 「イノベーション21」では、拠点の自立と拠点間の連携、地域統括機能の整備・拡充、それを支える日本の機能高度化によりグローバルに競争優位状態を創出する。



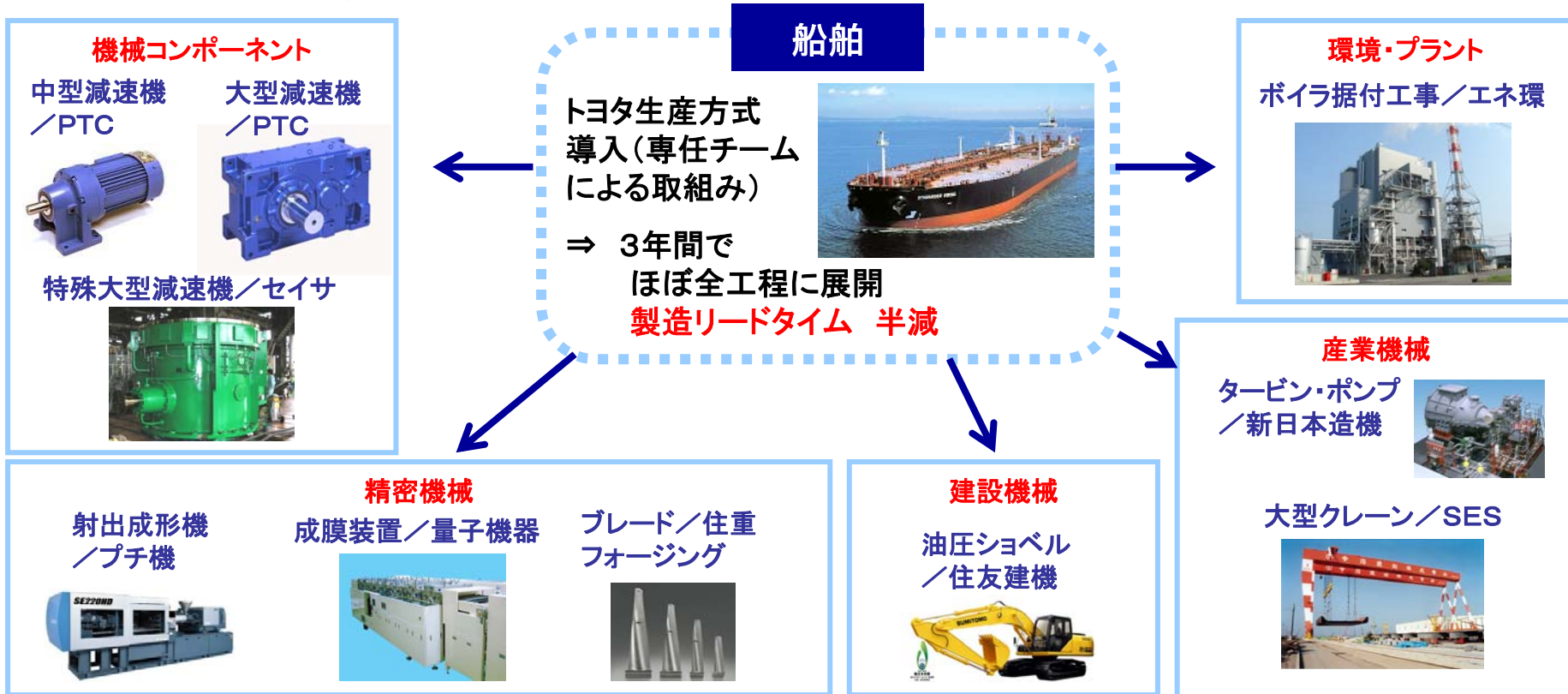
プロダクト・イノベーション

- 技術本部と事業部門が一体となった商品の開発により、「一流商品」を継続的に市場に提供する(特に、省エネ、再生可能エネルギー利用のグリーン商品)。
- イノベーティブなコンポーネント/技術モジュールにより装置・システムの価値を高める。



プロセス・イノベーション

■ TPS(トヨタ生産システム)を導入した船舶事業の成功例をグループ各社、事業部に展開



営業、設計、製造、サービス、間接業務など、あらゆるプロセスにおいてイノベーション活動を展開し、「イノベーション21」の目標達成につなげる

経営方針

2011－2013年度：
前中計「グローバル21」の基本方針を継承。
持続的成長が可能な
「強い住友重機械」を目指す。

- ✓ 経営規律と財務規律を守り、持続的競争優位を
確立し、健全な事業の発展を目指す。
- ✓ 保有する優れた事業ポートフォリオと人材を活用して、
如何なるときにも堅実に収益を確保する。
- ✓ 時勢の変遷を見極め、攻めと守りの施策を
バランス良く実践する。

将来の業績に関する予想、見通しなどは、現在入手可能な情報に基づき当社が合理的と判断したものです。
したがって実際の業績は様々な要因の変化により、記載の予想、見通しとは異なる場合があります。